

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	吉津保育園	施設種別	保育所
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

2010年 3月 1日

総 評	<p>吉津保育園は、昭和27年に宮津市立（当時は村立）として吉津地区唯一の公立保育園として開園し、運営されてきました。その後、宮津市において公的施設の見直しが進められる中、民間施設のノウハウを活かし保育サービスの質向上を図ることを目的に、平成20年4月から社会福祉法人みねやま福祉会へ民間移譲され、現在に至っています。</p> <p>みねやま福祉会吉津保育園（以下吉津保育園）として運営が開始されてからは、「地域に根ざす保育運営」を目標し、最初の1年間には地域のニーズを把握することから取り組まれました。民間移譲されるにあたり保育園に勤務する職員が全て変わったこともあり、保護者や地域の方々の不安は大きかったとのことですが、武田園長を先頭に「泣く子は放っておかない」という言葉に象徴されるように、子どもを受けとめる（受容）保育実践が保護者や地域の方々に徐々に受け入れられ、第三者評価でのヒアリングを通して、保護者や地域からの信頼が厚くなっているという印象を受けました。また、地域役員の会議や敬老会、運動会をはじめとする地域行事へ積極的に参加することで、「地元のお祭りの時には園庭で太刀振りが行われる」「近所に住むお年寄りが園庭草取りをする」等、地域との交流が生まれ、民営化された利点が日常的に吉津保育園にもたらされ、子どもの健全な生育に影響しているように見受けられました。</p> <p>保育実践では、保育園に一歩足を踏み入れた時から感じられる家庭的な雰囲気象徴されるように、家庭の延長として子どもたちにストレスをかけない保育が行われていると感じました。特に、家庭環境や身体的な成長から生じる子ども一人ひとりの違いを把握して、その子どもに応じて出来ることを見出し、そして達成感を持たせることを大切にするなど、個人を尊重した保育実践は子どもたちの成長に良質な影響を与えています。また、食事は宮津市という土地柄を利用して、その日に水揚げされた新鮮な魚を地元から仕入れたり、地元で収穫された野菜を用いるなど、地産地消を基本にバランスのとれた食事が提供されていました。そして、保護者に対しては、毎日の食事のサンプルを展示するほか、給食だよりを通じて人気のあるメニューのレシピやその季節での体調管理へのポイントを伝えるなど、食生活を充実するための取り組みがされていました。</p> <p>こうして良質な保育実践がされていますが、保護者への情報提供という部分では課題があると感じました。7時30分から18時30分を基本に、19時までの延長保育が実施されています。保育園では16時頃から子どもたちの帰宅が始まりますが、その後も保育園を利用する子どもたちに対しては「子どもが緊張せずに家庭でくつろいでいる時と同様の環境を作り出す」との配慮から、テレビの視聴をはじめ可能な限り子どもの望むことを取り入れています。先生方のお話では、子どもの緊張がほぐれるのと半比例してけがや事故が起きやすい環境となり、保育士は緊張する時間であるとお聞きしました。しかし、保護者の側からすると「子どもを放ったらかしにしているのではないか」と受け取られることも考えられます。リスクを冒しても子どもたちに家庭的にくつろげる</p>
-----	--

	<p>環境を整える意図を保護者に説明をするなど、園の提供する保育実践について理解を得るよう取り組んではいかがでしょうか</p> <p>今後も民間移譲を受けた利点を大きく活かし、宮津市吉津地域での保育の質向上のために取り組まれることを期待いたします。</p>
特に良かった点(※)	<p>I-1-1 (1) 保育の理念、基本方針、目標が確立されている 事業所の理念が明確に確立されており、園内・保育室内にも掲示されている。理念に基づく保育方針も保護者や来園者にもわかりやすいように掲示され、職員および利用者（保護者）への周知（職員会議や園のしおり）の取り組みが確認できた。</p> <p>IV-1-1 (1) 健康管理・食事 食事は、地元宮津市の特徴を活かし、その日に水揚げされた新鮮な魚や地元で収穫された野菜を食材に使用する等、地産地消を基本に提供されている。また、栄養士や調理員が食事時間に子どもの喫食状況を確認して、献立や食事の提供方法等に役立てている。さらに、園で提供された食事はサンプルとして展示するとともに、子どもたちに人気のメニューのレシピの配布や実際に試食会を実施する等、家庭との連携に努めている。</p> <p>IV-1-1 (3) 保育内容 ①② 保育方針に記載されているように、子どもたち一人ひとりの発達に応じた対応がされている。特に「泣いている子どもは放っておかない」という園長の方針のもと、しっかりと子どもを理解して受けとめる保育が実践されている。</p>
特に改善が望まれる点(※)	<p>IV-1-1 (3) 保育内容⑦ 子どもの権利擁護に関する研修に参加した場合は、その報告を全職員が共有するなど、人権に配慮する取り組みが職員間ではされているが、保護者に対しての取り組みを確認できなかった。</p> <p>IV-3-1 (1) 安全・事故防止 食中毒の発生予防のために「給食衛生管理マニュアル」や「保健衛生マニュアル」が整備されている。しかし、その見直しや点検を定期的に行われていることを確認できなかった。マニュアル見直しの有無にかかわらず、年度末など定期的に点検をされてはいかがだろうか。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】

評価結果対比シート

受診施設名	社会福祉法人みやま福祉会 吉津保育園
施設種別	保育所
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	2010年 1月 21日

保育所評価基準 評価結果対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-1 (1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-1 (2) 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	B	A
I-2 計画の策定	I-2-1 (1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。(非該当)	A	A
		I-2-1 (2) 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている	A
	② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。		A	A
	③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。		A	A
	④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。		B	A
	⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者に周知されている。	B	B	
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1 (1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	B	A
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	A	B
	I-3-1 (2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	A	A
[自由記述欄]				
I-1-1 (1)	事業所の理念が明確に確立されており、園内・保育室内にも掲示されている。理念に基づく保育方針も保護者や来園者にもわかりやすいように掲示され、職員および利用者（保護者）への周知（職員会議や園のしおり）の取組みが確認できた。			
I-2-1 (1)	中・長期計画の策定は项目的には非該当であるが、みねやま福祉会としてのプロジェクト会議で検討されている。今後は民営移行後の中・長期計画が、広く利用者や地域を巻き込んで整備されていくことが望まれる。			
I-2-1 (2)	年間指導計画の作成は、職員一人ひとりの意見を集約する形で組織的に適切に行われている。また、保育過程の実施状況が定期的に把握・評価（見直し）されている状況が一定程度確認できたので、A評価とした。しかし、保護者等への説明や周知の方法にはさらに工夫を要する。			
I-3-1 (1)	管理者の役割と権限については、職務分掌表や組織図で明確に示されており、「公民館便り」等に掲載し、表明している。その他の役職等についても人事考課に基づく役割資格等級基準において示されている。法令順守の視点から研修会や勉強会に参加している状況は確認できたが、対象となる法令の把握や、リスト化等の取組みが確認できなかった。			

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	B	A	
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A	
		② 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B	B	
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	③ 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	A	A	
		II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	B	A
			② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	A	A
	II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	B	A	
		① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A	
	II-3 地域との交流と連携	II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	B	A
① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。			B	A	
② 事業所が有する機能を地域に還元している。			B	A	
II-3-(2) 関係機関との連携が確保されている。		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	A	A	
	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A		
[自由記述欄]					
II-1-(1)	法人内においては、施設長会や経営プロジェクト会議等の取組みがなされている。福祉ニーズや潜在的利用者に関するデータは、宮津市から提供がある他、自治会に参加する等的確な把握に努めている。				
II-2-(3)	新任研修、法人内・外研修等、人材育成に関する積極的な姿勢が計画・実施実績等からも見受けられる。また、研修の実施・振り返り・より有効な研修を行うため反映方法等は、チームの中で日常的に行われている状況を聞き取ることができた。				
II-3-(1)	当法人への民営移行後、当園が必要性と重要性を表出している「利用者と地域とのかかわり」「事業所が有する機能の還元」に関しては、子育てサポートセンター事業の実施や地域ボランティアの受け入れ、関わりの取組み状況から十分なものが伺い知れる。民営移行のメリット（違い）を明確にし、表現していくことも現状での重要な視点として見受けられる。				

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
	Ⅲ-1-(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	B
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	A	非該当
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	B	A
	Ⅲ-2-(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	A	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	B
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	B	A
	Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	B
② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。			A	A
Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。		① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	C	B
[自由記述欄]				
Ⅲ-1-(1) ①	利用者のプライバシー保護は「個人情報の取扱について」に規定されていた。また、同意書に写真を新聞掲載する為の掲載範囲（法人内・行政等）を選択できる等の工夫が見られた。			
Ⅲ-1-(2) ①	苦情・要望は「苦情解決実施要綱」に基づき対応されている。そして、苦情・要望意見に分けて整理され、迅速に対応している。しかし、その公表および周知は確認できなかった。			
Ⅲ-2-(2) ①	入園前の面接では「発育状況調査表」により子どもの発育状況を確認し、入園後は「児童調査票」「家族調査票」により生育歴や病歴等を確認している。その調査票もきめ細かく記載されていた。			
Ⅲ-2-(2) ②	保育記録は「記録に関する保管、保存、廃棄に関する規定」により管理されていた。その規定において、保存年限は記されていたが、破棄規定は確認できなかった。			
Ⅲ-2-(2) ③	子どもや保護者に関する情報は、月2回実施される職員会議や職員用掲示板及び申し送りノートを活用して、迅速かつ的確に共有化に努めている状況が見受けられた。			
Ⅲ-3-(1) ②	保育園を利用するにあたっては、保育園のしおりに基づき説明がされ、納得理解を得た上で利用してもらっている。その説明のもととなる「しおり」は、保護者が見やすく親しみやすいように工夫をされていた。			
Ⅲ-3-(2) ①	卒園後の相談も積極的に受け入れ、取り組んでいる状況を聞き取ることができた。			

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A	
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A	
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A	
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A	
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A	
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A	
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	A	A	
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A	
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	B	B	
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	B	B	
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A	
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A	
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	B	A	
		④ 身近な自然や社会とかがわかるような取り組みがなされている	A	A	
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	A	A	
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A	
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している	B	B	
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A	
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A	
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A	
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	B	A	
	【自由記述欄】				
	IV-1-(1) ①	乳児・幼児ごとに健康管理デイリープログラムにより健康状態を把握している。また、登園時に保護者から健康状態について報告のあった園児は、申し送りノートを活用して降園日に1日の様子を伝えている。			
	IV-1-(1) ②③	健康診断は年2回、歯科検診は年1回実施して、その結果は保護者に周知するとともに、園児ごとの健康表に書きこんで職員間で情報交換を行っている。さらに、2歳児以上の園児に対して歯科衛生士によるブラッシング指導を行っている。			
	IV-1-(1) ⑤⑥⑦	食事は、地元宮津市の特色を活かし、その日に水揚げされた新鮮な魚や地元で収穫された野菜を食材に使用する等、地産地消を基本に提供されている。また、栄養士や調理員が食事時間に子どもの喫食状況を確認して、献立や食事の提供方法等に役立っている。さらに、園で提供された食事はサンプルとして展示するとともに、子どもたちに人気のメニューのレシピの配布や実際に試食会を実施する等、家庭との連携に努めている。			
	IV-1-(2)	調理室が園の中心にあり子どもたちが窓越しに調理の風景を眺められる環境は、子どもが心地よく過ごす環境につながっていると感じる。宮津市から移譲された建物は、老朽化が進むとともに部屋の配置・水回り・トイレ等、子どもが快適に過ごす環境とは言い難いが、職員の休憩室を乳児部屋に置き換える等、出来る限りの工夫で良質な環境を作り出していた。現在建設中の乳児棟が完成すると、更に環境は改善されると思われる。寝具の消毒は、保育園での定期的な実施を確認できなかった。			
	IV-1-(3) ①②	保育方針に記載されているように、子どもたち一人ひとりの発達に応じた対応がされている。特に「泣いている子どもは放っておかない」という園長の方針のもと、しっかりと子どもを理解して受けとめる保育が実践されている。			
IV-1-(3) ④⑤	保育園の周辺には海・山・川と豊かな自然があり、日常の保育はその自然を取り入れた活動がされている。また、民間移行された後、地域の伝統行事である「太刀振り」や「神楽」がお祭のときに園庭で実施されるなど、地域との交流も盛んに行われている。				
IV-1-(3) ⑦⑧	土曜日や延長保育では縦割りの異年齢児で交流し、遊びや生活を通じて人間関係を育むことができるよう配慮されている。子どもの権利擁護に関する研修に参加した場合は、その報告を全職員が共有するなど、職員間では人権に配慮する取り組みがされているが、保護者に対する取り組みは確認できなかった。				
IV-1-(3) ⑩	集団での保育が終了する16時以降も引き続き利用する子どもたちには、テレビ観賞など出来るだけ子どもたちが望むことを取り入れ、子どもたちが緊張せず家庭でくつろいでいる時と同様の環境を提供している。				

IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	B	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	B	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	B	A
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	A	A
[自由記述欄]				
IV-2-(1) ①②③	毎日の送迎時の保護者との対話は、子どもたちの様子をはじめ保護者と情報交換をする重要な時間であると考え、大切にしている。また、毎年5月に行う個人面談では、個人ごとの面談記録を記載し、特に職員間での情報共有が必要な事柄は職員会議で全職員に伝達している。さらに、給食試食会やおやつ試食会を実施して、保育園での食事の関する事項を共通理解できるよう配慮している。			
IV-2-(1) ④⑤	虐待については「虐待マニュアル」が作成され、必要な場合は児童相談所など関係機関に紹介、通告がスムーズに行えるよう整備されている。			
IV-2-(2)	一時保育は、個人面接を行って事業内容を説明して理解を得た後に実施している。利用している子どもの様子は個別記録に残しており、当日の様子等を連絡帳や送迎時の対話を通して保護者に伝えている。			

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	B	B
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	A	B
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	B	A
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A
[自由記述欄]				
IV-3-(1) ①②	食中毒の発生予防のために「給食衛生管理マニュアル」や「保健衛生マニュアル」が整備されている。しかし、その見直しや点検を定期的実施されていることを確認できなかった。			
IV-3-(1) ③④⑤	事故や災害の発生に対応するため「事故・災害発生時対応マニュアル」が整備されている。また、不審者に対しては「不審者の侵入時における対応マニュアル」が整備されている。子どもたちへは、交番のおまわりさんと地域の防犯推進委員の方に来てもらい、防犯訓練を行い事故防止に努めている。			